

文部省編纂

小學農業書 卷三

大日本圖書株式會社發行



文部省編纂

文部省

小學農業書 卷三

大日本圖書株式會社發行



# 目 録

|  |  |
|--|--|
| <p>第一課 農業……………一</p> <p>第二課 作物……………一</p> <p>第三課 品種……………二</p> <p>第四課 選種……………三</p> <p>第五課 耕鋤……………三</p> <p>第六課 土壤の構成……………四</p> <p>第七課 土壤の成分……………五</p> <p>第八課 硝酸化成……………五</p> <p>第九課 土壤の理學的性質……………六</p> <p>第十課 土壤の肥瘠……………七</p> <p>第十一課 播種……………八</p> <p>第十二課 問引……………九</p> | <p>第十三課 中耕……………九</p> <p>第十四課 施肥の目的……………十</p> <p>第十五課 肥料……………十</p> <p>第十六課 人糞尿……………十一</p> <p>第十七課 魚肥……………十二</p> <p>第十八課 骨粉……………十二</p> <p>第十九課 動物質肥料……………十二</p> <p>第二十課 綠肥……………十三</p> <p>第二十一課 油粕類……………十三</p> <p>第二十二課 米糠及ひ粕類……………十三</p> <p>第二十三課 厩肥……………十四</p> <p>第二十四課 堆肥……………十五</p> |
|--|--|

|       |            |     |
|-------|------------|-----|
| 第二十五課 | 硫酸アンモニヤ及び習 | 二十五 |
| 第二十六課 | 過燐酸石灰      | 十六  |
| 第二十七課 | 草木灰        | 十六  |
| 第二十八課 | 礦物質肥料      | 十六  |
| 第二十九課 | 肥料の混用      | 十六  |
| 第三十課  | 肥料の使用法     | 十七  |
| 第三十一課 | 灌溉         | 十七  |
| 第三十二課 | 排水         | 十八  |
| 第三十三課 | 苗床         | 十八  |
| 第三十四課 | 作物の病害      | 十九  |
| 第三十五課 | 作物の分類      | 二十  |
| 第三十六課 | 禾穀類        | 二十一 |
| 第三十七課 | 大豆         | 二十二 |
| 第三十八課 | 薑菽類        | 二十四 |
| 第三十九課 | 大根         | 二十五 |
| 第四十課  | 根菜類        | 二十七 |
| 第四十一課 | 菘類         | 二十八 |
| 第四十二課 | 葉菜類        | 三十  |
| 第四十三課 | 茄          | 三十二 |
| 第四十四課 | 果菜類        | 三十三 |
| 第四十五課 | 特用作物       | 三十四 |
| 第四十六課 | 果樹類        | 三十七 |
| 第四十七課 | 林樹の種類      | 三十九 |
| 第四十八課 | 造林法        | 三十九 |
| 第四十九課 | 伐木         | 四十  |

|       |        |     |
|-------|--------|-----|
| 第五十課  | 草地     | 四十  |
| 第五十一課 | 收穫物の貯藏 | 四十一 |
| 第五十二課 | 養蠶     | 四十二 |
| 第五十三課 | 養魚     | 四十四 |
| 第五十四課 | 養雞     | 四十四 |
| 第五十五課 | 家畜     | 四十六 |
| 第五十六課 | 家畜の繁殖  | 四十六 |
| 第五十七課 | 家畜の飼養  | 四十七 |
| 第五十八課 | 家畜の管理  | 四十八 |
| 第五十九課 | 農業の要素  | 四十八 |
| 第六十課  | 農業の組織  | 五十  |
| 第六十一課 | 農業の經營  | 五十  |
| 第六十二課 | 餘業     | 五十一 |

|       |         |     |
|-------|---------|-----|
| 第六十三課 | 物價      | 五十一 |
| 第六十四課 | 純收入     | 五十二 |
| 第六十五課 | 簿記      | 五十二 |
| 第六十六課 | 地主及び小作人 | 五十三 |
| 第六十七課 | 組合      | 五十三 |
| 第六十八課 | 農會      | 五十四 |
| 第六十九課 | 農學校     | 五十四 |
| 第七十課  | 農事試験場   | 五十五 |
| 第七十一課 | 農業の效用   | 五十五 |

第一課

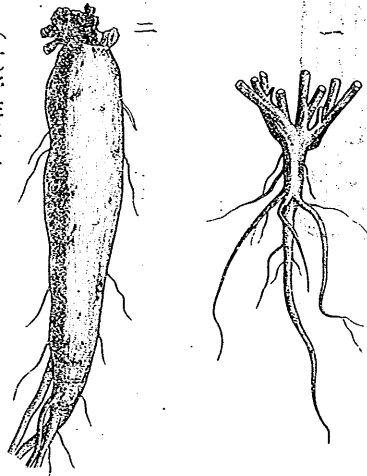
農業

農業は耕種・養畜を行ふ生業なり。人は元天産物に衣食せしものなるが、人口増殖して天産物に不足を生ぜしより、衣食の料を耕種・養畜に仰ぎ、其の業漸く改良發達して今日に至れるものなり。

第二課 作物

作物は野生植物の人工によりて育成せられたるものなるが、故に、之が選種・栽培其の宜しきを得ざれば、

第一圖



(一)野生はまだいこん  
(二)四代培養せるもの

發育不良なるのみならず、甚だしきに至りては退化絶滅の虞あり。

作物は食用作物と特用作物とに分つ。食用作物とは穀菽・蔬菜・果樹・牧草等の如く人畜の食料に供するものを云ひ、特用作物とは工藝の原料、観賞料、藥料等各種の用に充つるものを云ふ。

### 第三課 品種

品種は作物によりて多きと少きとあり。風土の適否、品質の優劣、收穫の多少、體質の強弱等それぞれ相異なるが故に、之が選擇に注意するを要す。而して其の特性を維持せんには嚴に選種を行はざるべからず。

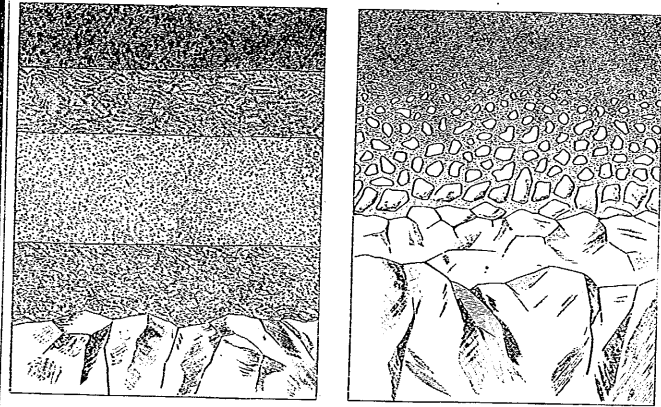
### 第四課 選種

凡そ種子を採るには肥沃に失せざる地に就きて、健全に發育せる母本を選ぶべし。作物によりて、異品種交雜の虞ある場合には之を防ぐを肝要とす。かくて採りたる種子は更に篩選・風選・比重選等を用ひて、よく發育したる肥大健全の粒子を選び取るなり。

### 第五課 耕鋤

耕鋤をなすは土壤を膨軟・鬆疎ならしめんが爲なり。土壤膨軟・鬆疎なれば、氣・水もよく流通し、養分の分解も隨ひて盛にして、作物の根はよく蔓延す。耕鋤には場合によりて精粗あり。是作物により

成構の壤土 圖二第



て、輕き土壤を好むものと否らざるものとあり、土質にまた輕重の差あればなり。

第六課 土壤の構成

土壤には砂土・粘土・壤土ありて、其の組織性質相同じからず。是母岩に種類多く、風化の程度に差あればなり。沖積土は原生土と異なりて、各種の母岩の分

解せるもの相集りて成り、土層も深く、肥沃なるもの多し。

第七課 土壤の成分

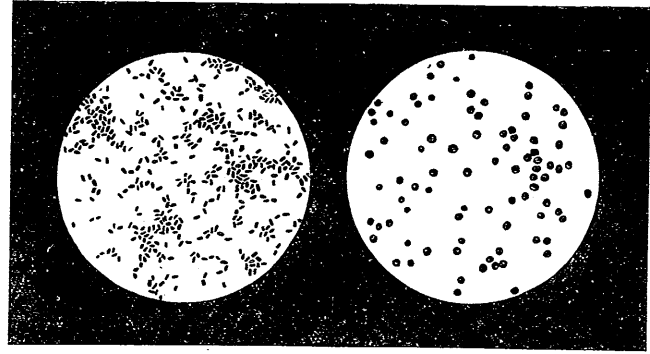
土壤中の無機分は大抵種類の鹽類となりて存し、有機分は主に腐植質より成る。腐植質は漸く分解して養分を供給す。

土壤成分には基骨成分と養分とあり。基骨成分は水分・養分を保ち、又植物根を支持するの用をなす。養分には可給態と不可給態とあり。不可給態養分は漸く變じて可給態となる。

第八課 硝酸化成

硝酸化成はアンモニヤが硝酸に變ずる現象にし

第三圖 硝化バクテリア



亞硝酸菌

硝酸菌

て、硝化バクテリアの作用によりて起るものなり。

硝酸化成は水分適度にして空気の流通宜しく硝酸と化合すべき鹽基に乏しからざる土壤に於て、温度高き季節に盛に行はる。

第九課 土壤の理學的性質

土壤には透水性と蒸發性とありて、過量の水を除き、遂には之が供給に不足

を告げしむるに至ることあり。又保水力と毛管引力とあり。此の兩作用は水の供給を豊かにし、甚だしければ過濕に至らしむる虞あり。是等の作用其の宜しきを得て、土壤は始めて肥沃なるを得るなり。土壤の温度は主として太陽に基づき、四季晝夜によりて相異なり。同一時に於ても乾濕、傾斜の方向等によりて差あるものなり。

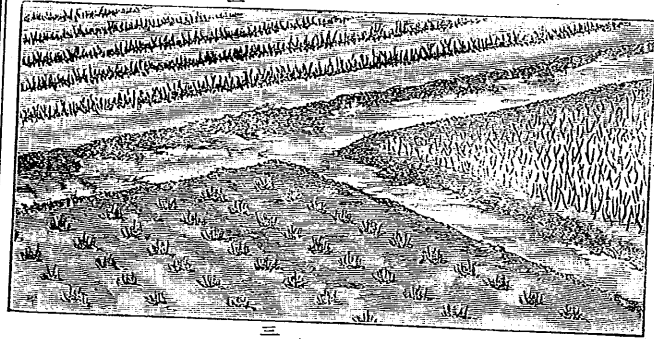
第十課 土壤の肥瘠

土壤には肥瘠あり。肥沃なるには左の條件を具備せざるべからず。

- 一、可給態養分に富むこと。
- 二、吸收力強きこと。



式種播 圖四第



播點(三) 播撒(二) 播條(一)

三、甚だしく酸性・アルカリ性ならざること。  
四、理學的性質良好なること。

五、地下水高からざること。

六、表土深きこと。

七、心土良質なること。

八、有毒物を含まざること。

第十一課 播種

播種には撒播・條播・點播・播の式あり。作物・風土・經濟事情等によりて選擇すべし。

引 間 圖 五 第



播種の疎密は土壤の肥瘠、施肥の多少、播種の早晚、栽培の目的等によりて相均しからず。

播種の深淺は種子の大小によりて定め、氣候・土質によりて加減すべし。

第十二課 間引

密に生えたる苗は成長するに隨ひ、よく選擇して二三回間引き、以て其の疎密の度を適當ならしむべし。

第十三課 中耕

作物の成長中、時時中耕して土

第六圖 中耕



を軟げ、氣・水の流通を良好にし、根の繁茂を助け、兼ねて雑草を除くべし。

第十四課 施肥の目的

肥料は大抵可給態養分を土壤に加へんが爲に施すものなれども、また理學的性質を良好にするものもあり。

第十五課 肥料

肥料の養分は可給態なるか、若しくは可給態に變じ易きものたるべし。養分の多少と之が狀態とによりて、肥料の價に差あるも

のなり。

肥料には直接肥料と間接肥料とあり。直接肥料には更に動物質肥料・植物質肥料・礦物質肥料の別ありて、獨り直接の效あるのみならず、間接の效あるものもあり。

第十六課 人糞尿

人糞尿は窒素に富める速效肥料にして、其の品質は食物の種類、人の年齢等によりて異なり。例へば肉食者の糞尿は菜食者の糞尿に優り、小兒の糞尿は大人の糞尿に劣るが如し。

人糞尿を用ふるには先づよく腐熟せしむるを肝要とす。是尿素は土壤に吸収せらるることなく、且

作物を害する虞多きが故なり。

第十七課 魚肥

干鰯・干鯧・鰯粕・鯧粕等は何れも窒素と磷酸とに富める濃厚肥料にして、搾粕は干魚に優るを常とす。是等の外、魚類の調理屑なども亦貴重すべき魚肥なり。凡そ魚肥を用ふるには物によりよく粉碎するか、又は肥溜にて腐熟せしむるを良しとす。

第十八課 骨粉

骨粉は殊に磷酸に富める肥料にして、粗製骨粉と蒸製骨粉との別あり。凡そ骨粉は基肥に適し、よく砕きたるもの程、其の效用速なるものなり。

第十九課 動物質肥料

動物質肥料には人糞・尿・魚肥・骨粉の外、蠶糞・鳥糞・肉粉・血粉・革屑・毛屑等ありて、何れも養分に富めり。是等は其の儘用ふることあれども、多くは汚水・堆肥等に混入して腐敗せしめたる後に用ふるを良しとす。

第二十課 綠肥

綠肥は養分を含むこと少からざるのみならず、有機物にも富みて、土質改良の效大なる肥料なり。荳科植物は綠肥として最も良好なり。

第二十一課 油粕類

油粕類中最も廣く用ひらるるは豆粕と油粕となり。何れも效用稍速にして、濃厚なる好肥料なり。

第二十二課 米糠及び粕類

米糠は磷酸に富み、窒素にも乏しからざる濃厚肥料なり。腐熟せしめて用ふれば、其の效速なり。

酒粕・焼酎粕・醬油粕・藍粕等も亦肥料として用ひらる。是等は、大抵其の效稍速なれば、其の儘用ひ、又は堆肥に加へ腐熟せしめて施用す。

## 第二十三課

## 厩肥

厩肥は家畜の種類・飼料・敷糞等によりて差あれども、偏頗なく養分を含み、有機物に富みて、土壤改良にも效多き好肥料なり。

厩肥を使用するには、先づ堆肥とするを常とす。堆肥腐熟の際、養分の損失を來す虞あるが故に、之が製造には大なる注意を要す。

## 第二十四課

## 堆肥

堆肥は亦稿稈・落葉・沃土・動物質等を混合して製すべし。其の材料の異なるに随ひ、性質も效能も大いに差あるものなり。

## 第二十五課

## 硫酸アンモニヤ及び智利硝石

硫酸アンモニヤは濃厚なる窒素肥料なり。效速にして、補肥として用ふるに適す。但し、年年多く之を施用する時は、場合によりて害を見ることあり。智利硝石は硝酸態窒素を含める濃厚肥料にして、效驗極めて速なり。但し、土壤に吸収せられ難きが故に、田に用ふるに適せず、畑に於ても之が用法に注意すべし。

第二十六課 過磷酸石灰

過磷酸石灰は速效にして濃厚なる磷酸肥料なり。よく土壤に吸収せらるるが故に、基肥として用ひて不可なし。

第二十七課 草木灰

草木灰は原料によりて品質に差異あれども、概ね加里に富み、磷酸にも乏しからざる好肥料なり。

第二十八課 礦物質肥料

礦物質肥料は所含養分濃厚なれども、偏頗にして有機分を有せず。故に其の分量と配合とに注意し、有機肥料と併せ用ふるを肝要とす。

第二十九課 肥料の混用

肥料は混用に注意せざれば、有效成分飛散し、或は不可給態となることあり。例へば人糞尿・硫酸アンモニヤ若しくは過磷酸石灰に石灰・木灰等を混ずるが如し。

第三十課 肥料の使用法

施肥は作物によりて異にすべし。是其の特性異なるのみならず、成長期の長短、需要の部分等相同じからざればなり。

肥料は土壤によりて配合を異にすべきのみならず、土壤の吸収力の強弱によりて、其の種類、施用の度数を異にすべし。

第三十一課 灌漑

灌溉の目的は土壤に水分を給するにあれども、又之に養分を與ふるにあり。用水は寒冷ならざるを良しとし、有害物を含まざるものたるべし。

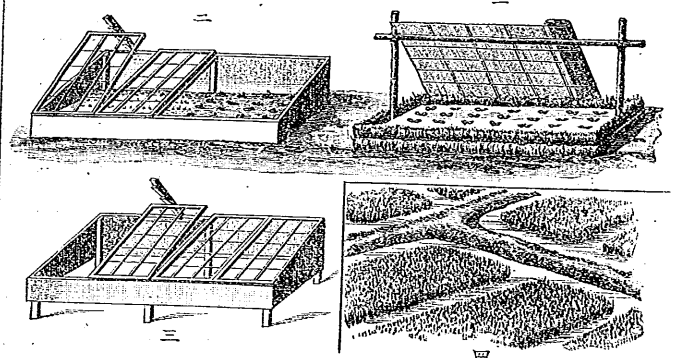
第三十二課 排水

排水は土壤中の過量の水分を除くものなるが故に、氣水の流通良好となりて、風化作用進み、温度高まる等效用多きものなり。

第三十三課 苗床

苗床は苗を仕立つる處にして、稻には特に苗代といふ。苗床は場合によりて、厩肥・落葉・塵芥などの如き發熱物を以て其の温度を高め、苗を早く造り、又は促成栽培を行ふことあり、之を温床と名づけ、之に對

第七圖 苗床



(一) 冷床 (二) 温床 (三) 冷床に用ふる木框及び硝子障子の構造 (四) 温苗代

して尋常のものを冷床といふ。

苗床にては成るべく空氣の流通、日光の照射、肥料の施用に注意して、苗を強健に育つること肝要なり。

第三十四課 作物の病害

作物の病害は害蟲・病菌・無機的作用に基づく。害蟲を防除するには作物を健康に育て、田圃を清潔にし、益蟲・益鳥の繁殖を圖り、

又捕蟲器・誘蛾燈・藥品等を用ふ。

病菌を防除するには寄主の被害部を燒棄し、或はボルドー液・石灰・硫黃等の藥品を用ふべし。作物を健全に育て、田圃を清潔にすることは、害蟲の場合に同じ。

作物の病を起す所の無機的作用には日光の不足、温度の不適當、養分及び水分の過不足、有害物の存在等あれば、毎によく其の原因を考究して、適宜處分すべし。

第三十五課 作物の分類

作物は便利上食用作物を穀菽類・蔬菜類・果樹類・飼料類に別ち、特用作物を工藝作物類・觀賞類・藥草類に

別ち、更に穀菽類は禾穀類・荳菽類に、蔬菜類は根菜類・葉菜類・果菜類に別つ。

第三十六課 禾穀類

禾穀類は多量の澱粉を含みて貴重すべき食料たるのみならず、酒を醸し、菓子を製するにも用ひらるるが故に、重要作物として到る處に栽培せられ、粟・稗等の外は累年作付段別増加の傾向あり。

禾穀類には冬作するものと夏作するものとありて、概ね前者は寒冷なる氣候に適し、後者は溫暖なるを好むものなり。何れもよく各種の土壤に生育すと雖も、就中粘質壤土に適するもの多く、水稻などの外は特に灌漑を必要とせず。

禾穀類は品種甚だ多く、稻・玉蜀黍等は頗る變性し易きものなり。禾穀類の種子を選ぶには大抵水選若しくは鹽水選を用ひ、播種するには稻は苗代に撒播し、麥・粟・稗等は直に本圃に條播又は摘播し、玉蜀黍は點播するを常とす。

禾穀類は時期の後れざる様に肥料を施し、屢中耕及び除草を行ひ、收穫するには大抵刈取るなり。此の他之に類する蕎麥も廣く栽培せらるる作物なり。

第三十七課 大豆

大豆は廣く栽培せらるるものなり。其の子實は多量の蛋白質と脂肪とを含みて、味噌・醬油・豆腐菓子等を製するに用ひ、又油を搾り、肥料にも用ふ。品種

第八圖 大豆



甚だ多く、播種の時期によりて夏大豆と秋大豆とに別ち、豆の形状によりて平大豆と丸大豆とに別つ。

大豆は本邦到る處に栽培し得るものなれども、溫暖に過ぎざる地方に於て殊に上品を産す。土質は稍粘重なる壤土を可とし、氣候寒冷なる地方に於ては輕鬆なる土壤にてもよく結實す。

大豆を栽培するには圃地を軽く耕鋤し、五六寸乃至一尺二三寸を隔てて二三粒宛摘播し、草木灰・過燐



酸石灰等の如き肥料を施すべし。圃地を精耕し、又は窒素肥料を多く施す時は、莖葉徒らに長じて結實少し。發芽後は數回除草、中耕をなし、子實の過半熟するに及びて之を拔取り、よく乾かして打落すべし。

## 第三十八課

## 荳菽類

荳菽類は多く子實を得んが爲に栽培するものなり。子實は蛋白質に富みて、直ちに食用に供し、又味噌・醬油・豆腐・餡・菓子等の原料に資す。

荳菽類には寒地を好むものと暖地を好むものあり。或は冬作とし、或は夏作とす。大抵壤土に適し、間、連作を忌む。

荳菽類を栽培するには良好なる種子を選びて摘

播し、中耕・除草を行ひ、蔓性のものには支柱を與ふべく、肥料としては加里・石灰・燐酸に富むものを施し、之が收穫は後れざる様に注意すべし。

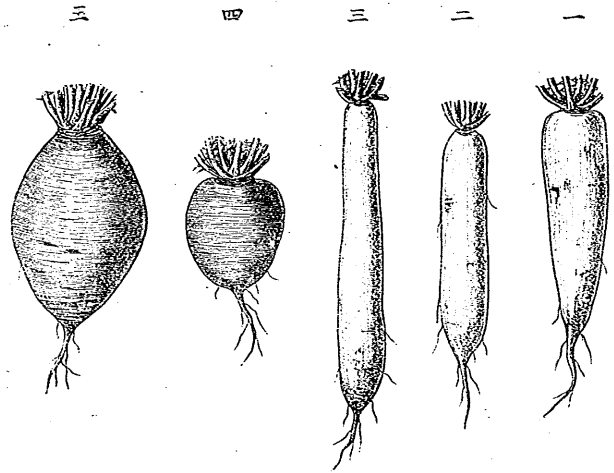
## 第三十九課

## 大根

大根は煮或は漬物として食し、又切干とし、或は生の儘にて用ふるなど、日常の副食物として重要なものなり。其の品種多く、大別して大根・大根・細根・大根とし、栽培の季節によりて時無大根・二年子大根・夏大根及び秋大根に別つ。就中其の形大に質良好にして弘く栽培せらるるは秋大根なり。練馬・宮重・方領・聖護院・櫻島等は其の最も著名なるものなり。

秋大根を栽培するには八九月頃土地を深く耕し、

第九圖 大根



丁寧に土塊を碎き、  
 適當なる距離によ  
 く腐熟せる堆肥・人  
 糞・尿・糠などの如き  
 肥料を施し、種子を  
 條播又は摘播する  
 を常とす。發芽後  
 は二三回間引を行  
 ひ、土寄をなし、稀薄  
 なる人糞尿を施し、  
 害虫の防除に力む  
 べし。之を收穫す

(一) 方領 (二) 宮重 (三) 練馬  
 (四) 聖護院 (五) 櫻島

るには根の發育十分なるに及びて之を拔取るべし。

第四十課 根菜類

根菜類は廣く栽培せらるる作物にして、水分に富むものと澱粉に富むものとあり。人畜の食物として貴重せらる。澱粉に富めるものは往往澱粉・アルコール等の製造に供せらる。

根菜類は多く夏作にして、稀に冬作するものあり。馬鈴薯の如く寒地を好むものと、甘藷の如く暖地を好むものとあれども、概ね我が國到る處に栽培せられ、輕鬆膨軟にして肥沃なる土壤に適す。蓮・慈姑等は特に水田に栽培せらる。

根菜類の繁殖法には種種あり。例へば大根・蕪菁

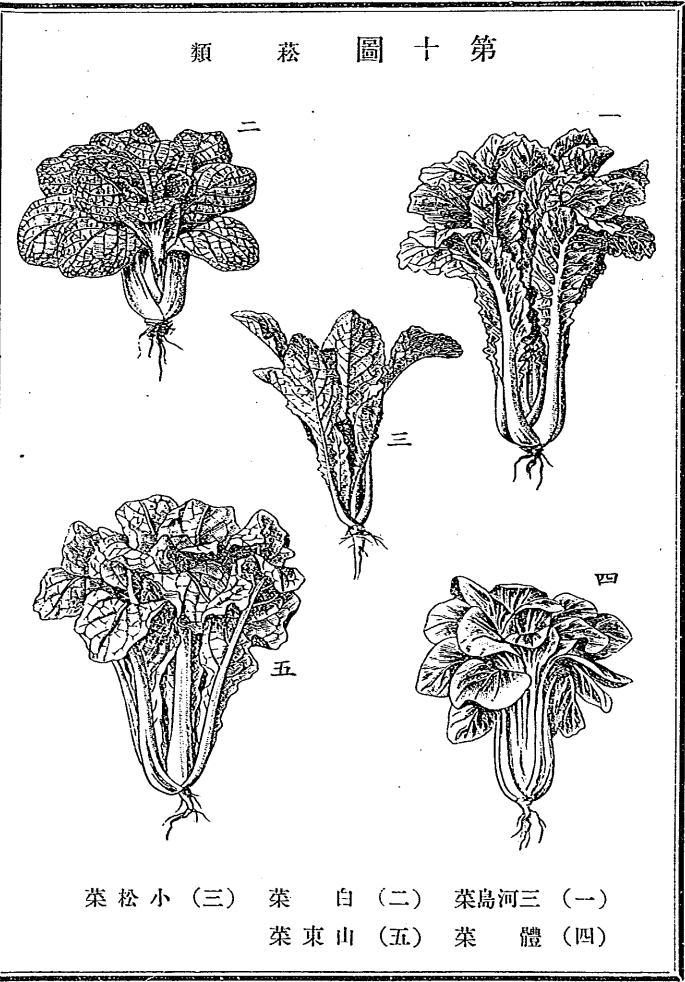
等は本圃に條播若しくは播種し、後間引きて適當なる距離を保たしめ、馬鈴薯などは塊莖を本圃に植付け、甘藷などは苗床に仕立てたる苗を移植するが如し。

根菜類を栽培するには丁寧な整地し、腐熟せる堆肥を基肥とし、補肥として稀薄なる液肥を施し、屢中耕・除草・土寄せをなし、甘藷には蔓返を行ひ、芋類には除蘖をなし、適期に至りて掘り或は抜きて收穫すべし。

第四十一課 菘類

菘類は其の葉を煮或は漬けて日常の食用に供す。其の種類甚だ多く、栽培の時期を異にするものあり。

第十圖 菘類



(一) 三河島菜 (二) 白菜 (三) 小松菜 (四) 體菜 (五) 山東菜

三河島菜・白菜・山東菜體菜等は九月頃播種して、十二月頃之を收め、小松菜・京菜・芥菜・壬生菜等は晩秋播種して、冬春の間に之を收む。

菘類を栽培するには特に深耕を要せざれども、よく土塊を粉碎して、人糞・尿・堆肥の如き肥料を施し、種子を條播すべし。發芽後は數回間引を行ひて、各株に適當なる間隔を保たしめ、人糞などを施し、害虫の防除に力め、小松菜の如く越年するものには笹などを立てて寒氣を防ぐべし。

第四十二課 葉菜類

葉菜類は多量の水分を含みて其の質柔軟なり。多く漬物となし、又煮て日常の食用に供す。夏作の

もの多けれども、冬作のものもありて、四時殆ど絶ゆることなし。

葉菜類は種類多く、甘藍の如く寒地に適するものあれど、大抵我が國到る處に栽培せられ、特に陰濕の地を好むものもあり。概ね砂質壤土に適し、根菜類の如く深耕を要せず。

葉菜類の繁殖法には種種あり。菘類の如きは丁寧に整地せる本圃に條播し、後成長するに隨ひて、間引きて適當の株間を保たしめ、土當歸・囊荷等の如きは普通分株して、十分基肥を施せる地に植付け、葱・甘藍等の如きは一旦苗を仕立てて後本圃に移植す。

葉菜類を栽培するには屢速效ある窒素肥料を與

へて成長を促し、且越冬するものには或は防寒法を施し、特に軟白法を行ふことあり。

第四十三課 茄

茄は夏秋の間日常の副食物として貴重せらるるものにして、煮又は漬物として食す。品種多く、千成茄・山茄・丸茄・巾着茄・水茄等は其の著名なるものなり。茄を栽培するには二三月頃先づ苗床に播種して苗を仕立て、四五月頃よく本圃を耕し、堆肥・人糞尿・灰・油粕糠・過磷酸石灰等を施し、之に苗を一本づつ植ゑ、數回中耕・補肥を行ふべし。補肥は殊に必要にして、若し之を怠る時は結果少く且色澤不良なるものなり。

第四十四課 果菜類

果菜類は夏季栽培せらるる作物にして、其の果實は生の儘若しくは漬け或は煮て日常の食料に供す。概ね壤土に適し、連作を忌むもの多し。

果菜類中西瓜・甜瓜・越瓜・豆類等は直ちに本圃に播種し、苺は分株して植付くるを常とし、其の他は大抵苗を仕立てて本圃に移植す。

果菜類を栽培するには屢中耕・除草を行ひ、多く肥料を施し、大抵摘芽を行ひ、且胡瓜・蕃茄・菜豆等には支柱を與へ、南瓜・西瓜等には結實期に及びて地上に藁を敷き、雌雄異花のものには花粉の人工媒助を利益とすることあり。收穫するには適度に成熟せるも

のを選びて摘採するを常とす。

第四十五課 特用作物

特用作物には種類甚だ多く、適地栽培法亦頗る異なり。

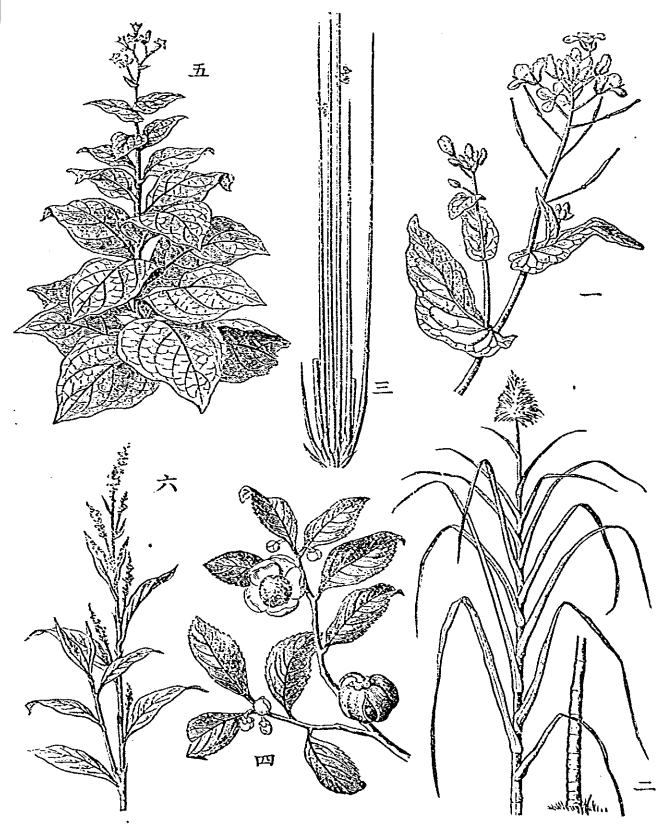
茶は温暖にして雨多き地に適し、春又は秋種子を五六尺の距離に摘播し、四年目より葉を摘採し、綠茶又は紅茶を製す。剪枝して樹形を整へ、又年年數回中耕施肥をなすべし。

烟草は廣く各種の風土に植ゑられ、就中排水佳良なる砂質壤土に適するものなり。春苗を仕立て本圃に移植し、中耕施肥除草摘芽驅蟲等に注意し、葉の黃熟するを待ちて收穫し、よく乾燥すべし。

甘蔗は温度高くして濕潤なる氣候を好む。熱帶亞熱帶の地方にては刈株より新芽を生ぜしめ、溫帶地にては莖の上部を貯へて、翌年三四月頃本圃に植付け、屢中耕除草等を行ひ、多量の肥料を施し、莖の下部熟して飴色を呈するに至り、刈取りて砂糖を製す。藺は春若しくは夏苗を仕立て、十一月頃に本田に移植し、常に灌水を行ひ、多く肥料を施し、翌年七月頃莖の色稍褪めたる頃刈取るなり。刈取れば泥水に浸して後よく乾し、疊表花筵等に製す。

藍は本邦到る處に栽培せらる。春苗を作り本圃に移植し、多量の速效肥料を二三回に分施し、中耕除草驅蟲等を行ひ、花穂の將に抽出せんとする時、刈取

第十圖 特作用物



(一) 油茶 (二) 甘煙 (三) 蘭 (四) 油茶 (五) 甘煙 (六) 蘭

りて藻を製す。

油菜は多く冬作するものにして、秋苗を仕立て冬本圃に移植するを普通とす。成長中は除草・中耕・土寄・施肥等をなし、子實の過半成熟するに至りて、刈取りて打落すべし。其の子實は搾りて油を製す。

第四十六課 果樹類

桃は温暖にして日當りよき砂質壤土に適し、接木法によりて繁殖し、適宜肥料を施し、剪定を行ひ、杯状に整枝するを良しとす。

梨は稍冷涼の氣候を好み、排水佳良なる砂質壤土に適し、濕地にも堪ふ。接木法によりて繁殖し、剪定を行ひ、棚形に整枝し、果實には多くの果樹と等しく

袋を掛く。苹果は寒地に適し、其の手入梨に似たり。柿は性嚴寒を厭ふものにして、土質には好悪少し。之を栽培するには接木法によりて苗を作り、高木作に仕立て、施肥・摘果に注意し、採果の際果實を枝と共に折取るべし。

柑橘類は寒地を忌み、砂礫に富める壤土に適す。接木法によりて繁殖し、多く肥料を與へ、防寒法を施し、下枝を除き、採果の際には蒂を除かざる様に切取るべし。

葡萄は溫和なる氣候を好み、雨量多きを忌む。通例挿木・壓條等によりて繁殖し、棚形に整枝し、施肥・剪定等に注意すべし。

## 第四十七課

## 林樹の種類

林樹中杉・檜・赤松・落葉松等は針葉樹にして、用材に適し、松はまた薪炭にも用ふ。櫟・樟・槲櫟・檜等は潤葉樹にして、前三者は用材に適し、後二者は専ら薪炭用に供せらる。

林樹には陰樹と陽樹とあり。扁柏・羅漢柏・花柏等は陰樹にして、落葉松・赤松・槲櫟・檜・杉等は陽樹に屬し、榆・赤楊樹・して、そろ等は其の中間に在り。

## 第四十八課

## 造林法

造林には天然造林法と人工造林法とあり。人工造林をなすには林地に種子を下し、若しくは苗木を植付け、成長するに隨ひて枝打・間伐等を行ふべし。



森林には喬林と矮林とあり。喬林は大抵用材林にして、矮林は多く薪炭林なり。又純林・混交林等の別あり。樹種・地勢・經濟上の關係等に鑑みて適宜採擇すべし。

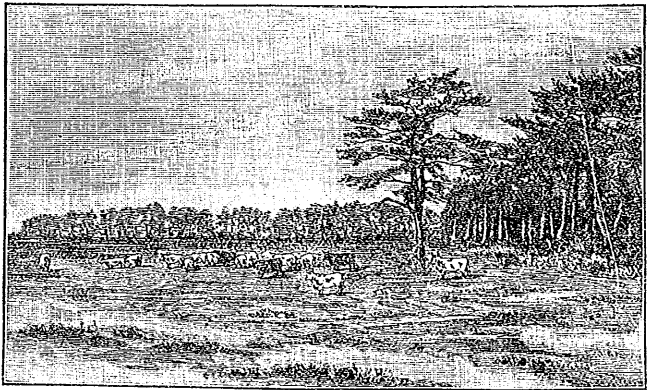
第四十九課 伐木

林樹には伐採の後、蘗を利用するものと然らざるものとあり。蘗を利用するものは秋季落葉後又は春季發芽前に伐りて、切口を滑にし置くを良しとし、然らざるものは冬季間伐採するを常とす。

第五十課 草地

草地には牧場と秣場とあり。我が國には何れも自生のもの多ければ、よき芻草を得んには良草を栽

第二十圖 牧場



培するなり。前者を天然草地といひ、後者を人工草地といふ。

凡そ人工草地の牧草を刈るには開花の頃を良しとす。天然草地にては秋季時遅れざる様に鎌止をなすべし。

第五十一課 收穫物の貯藏

收穫物の貯藏法は種類によりて多少異なり。穀

物はよく乾かして俵に入れ、乾きて且温度の低き場所  
所に貯ふべし。然らざれば腐敗・虫害などの虞ある  
ものなり。

根菜類は水分に富みて腐れ易きが故に、殊に貯藏  
所の温度と湿気とに注意し、又腐敗の傳播を防ぐに  
注意せんことを要す。

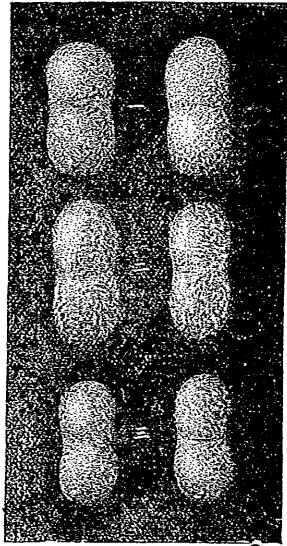
牧草は或は乾草とし、或は埋草として貯ふること  
を得べし。蔬菜は物によりて鹽漬となし、若しくは  
乾燥して貯ふることあり。

蔬菜・果實等は罐詰となして殺菌し且空氣の觸る  
るを防ぐ時は久しく貯藏するを得べし。

第五十二課 養蠶

蠶には一化性・二化性・多化性の別あり。就中一化  
性には品種甚だ多く、青熟・小石丸・又昔等は其の重  
なるものなり。各體質・絲質・收量等を異にするが故に、  
適良なるものを選びて飼ふべし。

第三十圖 繭



(一) 青熟 (二) 小石丸 (三) 昔文

春蠶を飼ふ  
には換氣・清潔・  
乾燥・温度等衛  
生に注意し、よ  
く給桑すべし。  
温暖育・清涼育

高温育の區別あれども、就中温暖育を通常とす。  
夏秋蠶を飼ふには特に給桑・除沙・分箔等の回数

多くし、桑葉は品質の揃へるものを與へ、剉方を大にし、桑附上簇等稍早きを可とす。

第五十三課 養魚

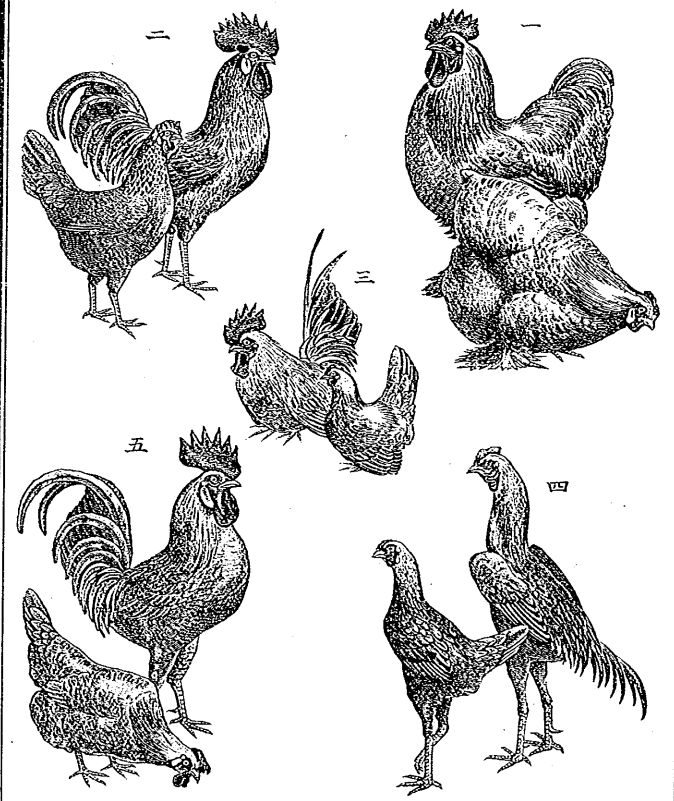
農家が飼養すべき魚類の主なるものは鯉なり。鯉は種種の動植物質を以て養ふべき河魚にして、繁殖せしめんとするには、別に小池を設け、之に親鯉を入れて産卵せしむべし。

鯉を飼養するには池に於てする外、灌漑中稻田に於てすれば、利益多きことあるものなり。

第五十四課 養雞

雞には卵用・肉用・卵肉兼用・愛翫用等の別ありて、各其の特徴を有し、レグホーン・アンダルシャン・シャモ・ブラ

第四十圖 雞の品種



（一）ンチーコ  
（二）ンーホグレ  
（三）ボチャ  
（四）モシャ  
（五）ンシャルダンア

マ・コーチン・チャボなど其の主なるものなり。

養鶏は廢物利用の效多きものなり。放飼と柵飼とあり。穀類・菜類・肉類・蟲類等を以て養ひ、雞舎は暖にして乾ける處に設くべし。

#### 第五十五課 家畜

家畜は其の生産物を採收し、或は其の力を利用せんが爲に飼ふ動物にして、家獸・家禽・家蟲に別ち、單に家畜と稱するは家獸を指すこと多し。

#### 第五十六課 家畜の繁殖

家畜を繁殖するには血統正しき良き親を選ばざるべからず。是親の形質子に遺傳するものなればなり。

家畜を繁殖するには常に之が劣變を防ぐことに力むべし。之が改良を圖らんと欲せば、變性者の淘汰若しくは異品種の交配を以てすべし。

#### 第五十七課 家畜の飼養

飼料には濃厚飼料と粗薄飼料とを適當に混合し、よく調理し、成るべく時を定めて與ふべし。又食鹽及び飲水の給與をも怠るべからず。

家畜の攝取する主なる養分は蛋白質・脂肪・炭水化物にして、其の分量は家畜の種類によりて異にし、年齢・飼養の目的等によりて斟酌すべし。

飼料の養分は悉く消化するものにあらず。又其の消化分の中にも蛋白質と脂肪及び炭水化物との

割合相同じからず。此の割合を滋養率といひ、場合に應じて適當ならんことを要す。

第五十八課 家畜の管理

畜舎は成るべく高燥の地に設け、家畜の種類によりて構造・廣狹を異にすれども、採光・換氣に宜しく、掃除に便なるを貴ぶ。

家畜を管理するには常に衛生に注意し、特に傳染病の起れる際には嚴に之が豫防に力めんことを要す。家畜の傳染病中恐るべきは牛疫・炭疽・皮疽・豚羅斯・雞虎列刺等なり。

第五十九課 農業の要素

農業を營むには必ず土地・勞力及び資本なかるべ

からず。故に此の三者を農業の三要素と云ふ。

農業に使用する土地は地勢・土質・氣候・經濟的事情等によりて利用の途を異にし、之を大別して耕地・草地・林地等とす。

勞力は四圍の事情、勞働者の體質及び智力、雇主の使役法等によりて效果に差異を生ずるものなり。

勞働者を雇ふには定雇・日雇・受負の別あり。受雇は功程速なれども、其の作業粗雜に流れ易く、定雇（日雇）は之に反す。

資本には流通資本と固定資本とあり。兩者相待ちて生産に資するものなれば、農業者は宜しく兩者の割合を適當ならしむべし。

第六十課 農業の組織

農業の組織は各地相同じからず。是其の自然的及び經濟的事情相同じからざればなり。

栽培上土地を利用するには穀菽式・工藝作物式・菜園式・樹園式・切替式・燒畑式等の種類あり。

第六十一課 農業の經營

農業を經營するには粗放・集約の別あり。粗放經營は生産費の少きを可とする場合に行ひ、集約經營は生産の多きを利とする場合に適す。

經營の大小は經營者の多少によりて定まり、大抵菜園式・樹園式等は集約なる小經營に適し、大經營は多く粗放なる穀菽式等を用ふ。

經營に自作と小作とあり。土地を所有せざるものは小作經營に依らざるべからざること勿論なれども、最も健全なる經營法は自作なりとす。

第六十二課 餘業

凡そ農業には時期によりて繁閑あり。閑時の勞力を利用するには澱粉製造・製絲・製紙・藁細工・織物等の如き餘業を適宜採擇すべし。

第六十三課 物價

物價は常に變動するものなれば、農家は常に其の高低に注意して、高價に賣り、廉價に買ふの心掛あるべし。

凡そ物價は需要供給の鈎合によりて變動し、需要

の割合に供給多ければ物價低く、供給の割合に需要多ければ之に反す。

第六十四課 純収入

農家は巧みに土地資本・勞力の利用を圖り、成るべく少き生産費を以て、成るべく多き粗収入を收め、以て純収入を増さんことを力むべし。

然れども漫に生産費を減ぜんと欲して、或は粗収入に大なる減少を來し、或は地力を害ふが如きことあるべからず。蓋し農業の純収入は多年の平均に基づきて算定すべきものなればなり。

第六十五課 簿記

農家は必ず帳簿を備へて、常に金錢・物品の出納・貸

借を明記し、少くとも毎年一回の收支決算をなして、其の事業の状況を審にすべし。

第六十六課 地主及び小作人

地主は小作人を保護誘掖して、農事の改良を圖り、小作人は勤儉産を作り、次第に土地を購入して自作人となるの心掛なかるべからず。

第六十七課 組合

農業には共同的に經營すべき事業甚だ多し。例へば水利・土工・病蟲害の防除、灌水の管理、稚蠶飼育・試験事業等の如し。

産業組合も亦共同經營事業にして、信用組合・購買組合・販賣組合及び生産組合あり。農家は適宜之を

設け、巧みに之を利用すべし。

組合には又茶業組合、産牛馬組合、重要物産同業組合、同業組合等あり。

第六十八課

農會

農會は農事の改良を圖らんが爲に設くる農業上の團體にして、市町村農會、郡農會、道府縣農會及び帝國農會あり。其の他農會法に據らざる特殊の農會亦少からず。

第六十九課

農學校

農業教育を施す所には農科大學、農業專門學校、農業學校、農業補習學校等あり。農家の子弟は便宜就きて學び、知識を磨き、技術を練り、徳性を養ひて、良農

となるの心掛あるべし。

第七十課

農事試験場

農事試験場は農事の改良上有益なる研究をなす所なり。農家は其の成績を參考して之が應用を怠るべからず。

第七十一課

農業の效用

農業には左の效用あり。

- 一、農業は多くの人に職業を與ふ。
- 二、農業に従事するものは身體強健なり。
- 三、農業に従事するものは心神高潔にして、忠君愛國の念厚く、且勤儉質實の風あり。
- 四、農業に従事するものには貧富の懸隔甚だしか



K140.61-1-3

らず。

五、農業盛なる國は兵強し。

六、農業盛なれば商工業亦榮ゆ。

七、農業盛なれば國民の食物豊かにして、其の國の經濟亦よく獨立す。

農業は趣味多くして且安全なる職業なるのみならず、上述の如く國民の道徳上・經濟上・國防上に效用大なるものなり。されば益之が發達に力め、以て國家の基礎を確實ならしめんことを要す。

大正元年八月十一日印刷  
 大正元年八月十四日發行

小學農業書卷三與附  
 定價金七錢

著作權者 文 部 省



發行兼印刷者 大日本圖書株式會社

東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地

右代表者 專務取締役 宮川保全

發賣所

大日本圖書株式會社

各府縣下特約販賣所

